

# Perplexity「Portable Computer」検証レポート

NVIDIA 専用ハードを要する限定的ローカルエージェント

2026 年 8 月 30 日

Claude Opus 5

## 1. 要旨

- Perplexity AI は 2026 年 8 月 25 日、公式ブログおよび公式 X で「Portable Computer」を正式発表した<sup>1,2,3</sup>。クラウド版「Perplexity Computer」の全ランタイム（オーケストレーター LLM、サブエージェント LLM、エージェントハーネス）をローカルハードウェア上で実行する版であり、NVIDIA との共同展開である<sup>3,4</sup>。研究プレビューではなく、Pro/Max/Enterprise 加入者向けの提供済み製品である<sup>1</sup>。
- ただし「ローカル AI エージェント」という語感ほど汎用的ではない。動作には NVIDIA DGX Spark、または VRAM 24GB 以上の NVIDIA RTX GPU を搭載した Linux 機が必須であり<sup>1,7</sup>、一般的なノート PC では動作しない。ローカル実行分のトークン課金はゼロだが、クラウドのフロンティアモデルへのエスカレーションは従量課金かつユーザー承認制である<sup>2,6</sup>。
- 名称「Portable Computer」は英語の一般名詞であり、Perplexity は同名の米国商標を出願していない（調査時点）<sup>19</sup>。同社は「Perplexity Computer」「Personal Computer」も含めこれら一般名称的な製品名を商標登録しておらず、代わりにスローガン「EVERYTHING IS COMPUTER」を 2026 年 7 月に出願している<sup>19</sup>。識別力（distinctiveness）上の制約が背景にあると推認される（筆者の分析）。

## 2. 前提の真偽検証

### 2.1 一次ソースによる確認

以下により、発表の事実は一次ソースで確認できた。

- Perplexity 公式ブログ 2 本（製品告知「Introducing Portable Computer for local-first AI」および研究ブログ「A Local-First Agent for Private and Cost-Effective Knowledge Work」、いずれも 2026 年 8 月 25 日付）<sup>1,2</sup>。

- Perplexity 公式 X (@perplexity\_ai) が同日、DGX Spark 上での Portable Computer 提供開始を告知<sup>3</sup>。
- NVIDIA 公式ブログも同日、DGX Spark 向けローカル AI の主要事例として本製品を掲載<sup>4</sup>。

## 2.2 二次報道の範囲

VentureBeat、The New Stack、Gizmodo、The Register、Implicator、Basic Tutorials、BigGo Finance 等が 2026 年 8 月 25～26 日に報道した<sup>5,6,7,8,9,10,11</sup>。一方、日本語の主要技術メディアによる一次的報道は調査時点で確認できなかった（未確認）。

## 2.3 名称・位置づけの整理

正式名称は「Portable Computer」。一部メディアが「Local Computer」と通称している<sup>8</sup>。同社の「Computer」系製品はクラウド版「Perplexity Computer」（2026 年 2 月 25 日発表）、Mac 向け「Personal Computer」（2026 年 4 月 16 日発表）に続く 3 番目にあたる<sup>1</sup>。なお一部報道が親製品を「Personal Computer」と誤記しているが、Portable Computer の親はクラウド版「Computer」である点に注意を要する。

## 3. 技術的内容

- フルスタックのオンデバイス化：オーケストレーター LLM、サブエージェント LLM、エージェントハーネス、プランナー、ツールルーター、スケジューラ、永続タスクキュー、ローカル検索インデックスのすべてがローカルで動作する<sup>2,3</sup>。
- モデル構成：Qwen 3.8 27B（DGX Spark では 3bit 量子化）、および同モデルを Perplexity がポストトレーニングした「PPLX 27B」<sup>2</sup>。NVIDIA Nemotron 3.5 Lightning（30B）は近日対応予定。推論エンジンは vLLM。ローカル音声認識には NVIDIA Nemotron 3.5 ASR を使用<sup>2,4</sup>。
- ハードウェア要件：NVIDIA DGX Spark（GB10 Grace Blackwell、20 コア Arm CPU、128GB 統合メモリ）、または VRAM 24GB 以上の RTX GPU 搭載 Linux 機（Ubuntu on ARM/x64、または DGX OS）<sup>1,7</sup>。DGX Spark Founders Edition の正式 MSRP は 4,699 ドル。The New Stack は、旧型 RTX 3090（24GB）でも現状 1,500 ドル超を要する点を指摘している<sup>9</sup>。Windows 対応は 2026 年 9 月予定、DGX Station 対応も作業中<sup>1</sup>。

- プライバシー設計：既定では全処理がローカル。クラウド上の 15 以上のフロンティアモデルへのエスカレーションはユーザー承認制で、PII 分類器が送信内容を事前チェックし、アドバイザーモデルはテキストによる助言のみを返す（端末上のファイル・ツールに直接アクセスしない）<sup>2</sup>。コード実行は OS レベルのサンドボックス内で行われ、サンドボックスが利用できない場合はハーネスがツール実行を無効化する設計とされる<sup>2</sup>。
- コネクタ：Google Drive、Gmail、Slack、GitHub。MCP サーバではなく、コンパクトな CLI ツールに変換することで文脈効率を確保しているとされる<sup>2</sup>。

## 4. ベンチマーク（自社公表・第三者未検証）

以下はいずれも Perplexity の自社評価であり、第三者による独立検証は確認できていない。

VentureBeat も自社評価である旨を明記している<sup>5</sup>。

| ベンチマーク                                       | Computer ハーネス                                              | 比較対象                            |
|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| Local Knowledge Work Bench<br>（自社ベンチ、53 タスク） | Qwen 3.8 27B：82.6%／<br>PPLX 27B：85.4%                      | Pi：77.6%、Hermes：74.0%           |
| BrowseComp（1,266 タスク）                        | 66.7%                                                      | Pi：50.2%、Hermes：43.9%           |
| ParseBench-100（マルチモーダル文書理解）                  | 65.1%                                                      | Hermes：34.6%、Pi：13.9%           |
| Terminal Bench 2.1（89 タスク、コーディング）            | フルローカル：59.6%／<br>Claude Opus 5 併用：73.0%<br>（1 回約 0.415 ドル） | Claude Opus 5 単独：82.4%（0.65 ドル） |

（出典：<sup>2,5</sup>）

## 5. 提供形態

- 対象：Perplexity Pro、Max、Enterprise Pro、Enterprise Max 加入者。無料ユーザーは初期展開の対象外<sup>1</sup>。
- 価格：サブスクリプションに内包され追加料金なし。ただし DGX Spark 等のハードウェアは別途自己負担<sup>1,6</sup>。
- 導入：Perplexity アプリからワンクリックでセットアップ。Linux 先行、Windows は 2026 年 9 月予定。Apple Silicon 対応はロードマップ上未定<sup>1</sup>。

## 6. 競合比較と分野の成熟度

## 6.1 主要各社の動向（2026 年時点）

- OpenAI：AI ブラウザ Atlas（2025 年 10 月ローンチ）を 2026 年 8 月 9 日に終了し、ブラウザ系エージェント機能を ChatGPT デスクトップアプリと Codex に統合。2026 年 7 月 9 日には長時間タスク型エージェント「ChatGPT Work」を投入<sup>13</sup>。
- Anthropic：「Claude for Chrome」（2025 年 8 月パイロット、12 月に有料全プラン展開）、「Claude Cowork」（2026 年 1 月）。いずれもクラウド実行型<sup>13</sup>。
- Google：「Gemini Auto Browse」（2026 年 1 月デスクトッププレビュー、6 月末 Android 展開）<sup>13</sup>。
- Microsoft：「Copilot Cowork」（2026 年 6 月、Microsoft 365 連携）<sup>13</sup>。
- Perplexity 自身：AI ブラウザ Comet（2025 年 7 月 Max 限定→10 月無料化、2026 年に iOS / Android 展開で全プラットフォーム無料化）<sup>13</sup>。

差別化点（筆者の分析）：「完全オンデバイス実行+ローカル分のトークン課金ゼロ+DGX Spark 最適化+ワンクリック導入」の組み合わせは他社にない切り口である。もっとも、クラウド実行が主流のなかで高額な NVIDIA ハードウェアを要する点が普及の最大の障壁となる。

## 6.2 分野全体の未成熟さ

コンピュータ操作エージェントは総じて未成熟である。学術ベンチマーク OSWorld 2.0（108 タスク）では、最高性能の Claude Opus 4.8（最大思考+バッチツールコール、500 ステップ）でも完全達成率は 20.6%（部分スコア 54.8%）にとどまり、GPT-5.5 系は約 13%で頭打ちと報告されている<sup>14</sup>。本製品の評価にあたって、この分野全体の限界を前提とすべきである。

## 7. 反響・評価

- 肯定的評価：DGX Spark を即座にローカル AI エージェント環境化できる導入の容易さが評価されている<sup>7</sup>。ローカル AI 開発者層からは「ローカルエージェントの正当化」として歓迎する声がある<sup>12</sup>。
- 懐疑的評価：Hacker News では「Perplexity の差別化が薄い、あるいは伝わっていない」との指摘<sup>12</sup>。Gizmodo は DGX Spark が Mac Mini の約 5 倍のコストである点を指摘<sup>10</sup>。The Register は、告知内で NVIDIA ブランドが 6 回言及されたことを、NVIDIA による 300 億ドル評価額での出資検討報道と結びつけて皮肉った<sup>11,15</sup>。オープンソース開発者からは既存ローカルエージェント UI との類似性も指摘されている<sup>12</sup>。

- 自社ベンチマーク結果が第三者未検証である点は、評価上の留保事項である<sup>5</sup>。

## 8. NVIDIA との関係と資金背景

- The Information は 2026 年 8 月 23 日、NVIDIA が Perplexity へ 300 億ドル超の評価額で出資を検討中と報じた<sup>16,15</sup>。前は約 1 年前（2025 年 9 月、200 億ドル評価で 2 億ドル調達）であり、50%以上の増加となる<sup>15</sup>。Portable Computer の発表はこの直後にあたる。
- Perplexity の年換算売上（annualized run rate）は年初の約 2.5 億ドル未満から約 7.5 億ドル超に増加し、Perplexity Computer が牽引したと報じられている<sup>15,16</sup>。
- NVIDIA は 2023 年から Perplexity に出資済みで、Jensen Huang CEO は Perplexity を常用チャットボットと公言している<sup>15</sup>。「NVIDIA が出資し、その資金で Perplexity が NVIDIA チップを購入する」という循環構造への批判もある<sup>11</sup>。

## 9. リスク・課題

### 9.1 セキュリティ（プロンプトインジェクション）

同社の Comet ブラウザでは 2025 年、間接プロンプトインジェクション（Brave 報告、8 月）および URL パラメータ経由の「CometJacking」（LayerX 報告、責任開示 8 月 27 日）が指摘され、Gmail/Calendar からの機微データ窃取が実証された<sup>24</sup>。Perplexity は LayerX の指摘を当初「セキュリティ影響なし（Not Applicable）」と回答したと報じられている<sup>24</sup>。Portable Computer はサンドボックス、PII 分類器、ユーザー承認ゲートで緩和を図るが<sup>2</sup>、シェルコマンドを実行しうるエージェントの本質的リスクは残る（筆者の評価）。

### 9.2 著作権・利用規約上の係争

- Cloudflare（2025 年 8 月）：robots.txt を無視した「ステルススクロール」を指摘し、検証済みボット一覧から削除。Perplexity は宣伝目的の指摘であると反論した<sup>17</sup>。
- Amazon（2025 年 11 月提訴）：Comet 経由の無断購買につき CFAA 違反を主張。2026 年 3 月に予備的差止命令が出され同月末に停止したが、第 9 巡回控訴裁が Amazon の CFAA 主張を退けて差止を取り消した（「ユーザーの指示で動くエージェントはユーザー自身」との論理）<sup>25</sup>。

- New York Times (2025 年 12 月 5 日、S.D.N.Y.提訴) : 著作権・商標侵害を主張。  
Chicago Tribune も同時期に提訴。先行して Dow Jones/New York Post (2024 年 10 月) も提訴済み<sup>18</sup>。

## 10. 知的財産の観点

### 10.1 商標

Perplexity AI の米国商標ポートフォリオ (Justia 集計、全 14 件) を確認した結果、「Portable Computer」「Perplexity Computer」「Personal Computer」のいずれも出願が確認できなかった (調査時点)<sup>19</sup>。同社が出願しているのは以下である<sup>19</sup>。

- COMET (3 件、Serial 99396063/99396066/99396072、2025 年 9 月 16 日出願)。うち 1 件は先行 COMET 登録 (Reg. 4539293、同 2839029) との混同のおそれ (2 条(d)) で非最終拒絶を受領。代理人は Latham & Watkins の Perry J. Viscounty。
- PERPLEXITY 関連 (98400215/98400216/98437227)。Perplexity Solved Solutions による TTAB 異議 91296890 の対象。
- ANSWER MACHINE/AM/AM-1 (ハードウェア、2024 年 9 月)。
- スローガン「EVERYTHING IS COMPUTER」 (Serial 99946716、2026 年 7 月 17 日出願)。

### 10.2 一般名称性の問題

「portable computer」「personal computer」は英語の普通名詞であり、識別力スペクトラム上は記述的から総称的の範囲に位置する。実際、雑誌名としての「PORTABLE COMPUTER」商標 (Reg. 1281093) は既に消滅しており<sup>20</sup>、「PC LAPTOPS」は TTAB で総称的として登録を拒絶された<sup>21</sup>。Perplexity がこれらの製品名を商標出願していない事実は、この登録困難性と整合的である (ただしこれは筆者の推論であり、当該名称に対する USPTO の拒絶通知が現に出ているわけではない——そもそも出願自体が存在しない)。

### 10.3 特許

Perplexity AI に帰属する AI エージェント、コンピュータ操作、オーケストレーション、ローカル推論に関する登録特許・公開出願は確認できなかった。検索で表出する「Agentic orchestration」特許 (US 12,412,138、US 12,346,713) は RPA ベンダー (記載内容から UiPath 系と推定。2024

年 10 月 22 日の仮出願 63/710,555・63/710,548 を優先権主張) のものであり、Perplexity とは無関係である。

なお「Perplexity Patents」は同社が 2025 年 10 月に公開した AI 特許検索ツール (製品) であって、同社保有特許を指すものではない<sup>22,23</sup>。同社は元 USPTO Chief AI Officer の Jerry Ma 氏を政府渉外担当 VP として採用している。また、Comet ML 社との当事者系レビュー (IPR2025-01063、特許 11,650,968) は 2025 年に和解・終了している。

## 11. 日本市場・実務的含意

### 11.1 日本市場

Perplexity は SoftBank と提携しており (2024 年 6 月に Perplexity Pro の無料提供、2025 年 3 月に Enterprise Pro の再販)、同社公式 X によれば、SoftBank の 7,000 人規模の営業部隊を活用してリーチを拡大し、Enterprise Pro の初の公認リセラーとしている<sup>26</sup>。Portable Computer 自体の日本での提供可否・時期は個別に明示されておらず未確認だが、Pro/Max/Enterprise 加入により技術的には利用可能と推測される (要 DGX Spark 等)。NVIDIA は 2026 年 7 月、富士通・日立・ファナック・安川電機・川崎重工等とフィジカル AI 分野で提携を発表しており、DGX 系ハードウェアの日本国内流通基盤は整いつつある。

### 11.2 知財部門への含意

- 自社が「Computer」「Portable/Personal Computer」等の一般名称的ブランドを採用する場合、識別力欠如により商標保護が得にくいという教訓として参照できる<sup>20,21</sup>。
- ローカル/コンピュータ操作エージェント分野では、Perplexity 自身が特許を保有しない一方で RPA 系ベンダーが出願を進めている。自社実装を行う場合は FTO (実施の自由) 確認を推奨する。
- Perplexity をめぐる一連の係争 (著作権・CFAA) は、エージェントによる第三者サイトアクセスの適法性が未確定であることを示しており、社内利用ポリシー策定時に考慮すべきである<sup>17,18,25</sup>。

### 11.3 情報システム・セキュリティ部門への含意

- 機微データをクラウドに出さないオンデバイス設計は、金融・法務・医療等の規制業種におけるエージェント導入の障壁を下げうる<sup>2</sup>。

- 導入前に、①サンドボックス設定、②クラウドエスケーシングの承認フロー、③PII 分類器の実効性、④Enterprise 契約におけるモデル学習からの除外、を検証すべきである。

Enterprise Max は学習除外が既定である一方、コンシューマ向け Max は手動オプトアウトが必要との報道があり、契約種別の確認が重要である。

- プロンプトインジェクションは業界共通の未解決リスクであり（OpenAI の CISO も公に認めている）、機微ワークフローは当面エージェントから隔離することが妥当である<sup>24</sup>。

## 12. 結論と判断の分岐点

- Portable Computer を「汎用ローカル AI」と誤解すべきではない。NVIDIA DGX Spark（約 4,699 ドル）または VRAM 24GB 以上の RTX GPU 搭載 Linux 機が前提であり、当面は評価・PoC 向けである。導入検討は 1 台の DGX Spark による限定パイロットから始めるのが現実的である（筆者の推奨）。
- 判断を変える閾値（筆者の分析）：(a) Windows（2026 年 9 月予定）および Apple Silicon 対応と、より安価なハードウェアの登場により普及可能性が上がる。(b) 第三者による独立ベンチマーク検証が出れば性能主張の信頼性が上がる。(c) Amazon／NYT 等の係争で「ユーザー指示に基づくエージェント＝ユーザー」の法理が確定すれば、エージェントの商用利用リスク評価が変わる。

## 13. 留意事項（本レポートの限界）

- ベンチマークはすべて Perplexity の自社公表であり、第三者未検証である。実運用性能は異なりうる<sup>5</sup>。
- NVIDIA の出資検討（300 億ドル超の評価額）は The Information の報道段階であり、正式成立は未確認である<sup>16</sup>。
- 商標・特許の「出願なし」は Justia 集計に基づく調査時点の所見である。2026 年 8 月 25 日のローンチ直後の出願はデータ反映に遅延がある可能性があるため、USPTO TSDR 等での最新ステータス確認を推奨する。COMET 等の個別マークのライブ・ステータスコードも未確認である<sup>19</sup>。
- 日本での提供時期・条件、および日本語一次報道の有無は未確認である。
- 法的評価（CFAA、著作権、商標の識別力）は係争中・不確実であり、本レポートは断定を避けている。

- 金額表記の注意：Perplexity の年換算売上は「約 2.5 億ドル→約 7.5 億ドル」（million 単位）、NVIDIA の出資検討は「300 億ドル（30 billion）評価額」である。一部メディアで桁の誤記が見られるため区別を要する。

## 参考文献

- [1] Perplexity AI 「Introducing Portable Computer for local-first AI」 公式ブログ、2026 年 8 月 25 日。  
<https://www.perplexity.ai/hub/blog/introducing-portable-computer-for-local-first-ai>（一次ソース）
- [2] Perplexity AI 「A Local-First Agent for Private and Cost-Effective Knowledge Work」 公式研究ブログ、2026 年 8 月 25 日。  
<https://www.perplexity.ai/hub/blog/a-local-first-agent-for-private-and-cost-effective-knowledge-work>（一次ソース）
- [3] Perplexity 公式 X (@perplexity\_ai) 投稿、2026 年 8 月 25 日。  
[https://x.com/perplexity\\_ai/status/2092268362386780270](https://x.com/perplexity_ai/status/2092268362386780270)（一次ソース）
- [4] NVIDIA 公式ブログ (blogs.nvidia.com)、DGX Spark 向けローカル AI 事例として Perplexity Portable Computer を掲載、2026 年 8 月 25 日。※個別記事 URL は未確認（一次ソース）
- [5] VentureBeat、Perplexity Portable Computer 関連記事、2026 年 8 月 25 日。※個別記事 URL は未確認（二次報道）
- [6] Implicator 「Perplexity Ships Local AI Agent on Nvidia DGX Spark with No On-Device Token Cost」。  
<https://www.implicator.ai/perplexity-ships-local-ai-agent-on-nvidia-dgx-spark-with-no-on-device-token-cost/>（二次報道）
- [7] Basic Tutorials 「Perplexity Portable Computer: AI agent now runs locally on Nvidia DGX Spark」。  
<https://basic-tutorials.com/news/perplexity-portable-computer-ai-agent-now-runs-locally-on-nvidia-dgx-spark/>（二次報道）
- [8] BigGo Finance 「Perplexity Takes AI Agents Offline With Portable Computer Running Fully on Local Hardware」。  
<https://finance.biggo.com/news/b54d1a63-eec1-4b70-8612-c0d974968466>（二次報道）
- [9] The New Stack、Perplexity Portable Computer 関連記事、2026 年 8 月。※個別記事 URL は未確認（二次報道）
- [10] Gizmodo 「Perplexity Launches Local AI Model That Will Run on Your GPU Instead of the Cloud」。  
<https://gizmodo.com/perplexity-launches-local-ai-model-that-will-run-on-your-gpu-instead-of-the-cloud-2000802883>（二次報道）
- [11] The Register、Perplexity Portable Computer 関連記事、2026 年 8 月。※個別記事 URL は未確認（二次報道）
- [12] Hacker News 「Perplexity Portable Computer」 スレッド。  
<https://news.ycombinator.com/item?id=49439535>（コミュニティ反応）
- [13] Nerd Level Tech 「AI Browser Agents in 2026: Claude, ChatGPT Work, and Gemini」。  
<https://nerdleveltech.com/ai-browser-agents-claude-chatgpt-gemini>（二次情報）

- [14] OSWorld 2.0 論文、arXiv:2606.29537、2026 年 7 月 15 日。※arXiv 掲載 URL は未確認（学術一次ソース）
- [15] The American Bazaar 「Nvidia in talks to invest in Perplexity at over \$30 billion valuation」 2026 年 8 月 25 日。https://americanbazaaronline.com/2026/08/25/nvidia-in-talks-to-invest-in-perplexity-at-over-30-billion-valuation-486981/（二次報道）
- [16] The Information、NVIDIA による Perplexity への出資検討報道、2026 年 8 月 23 日。※原記事 URL は未確認・有料（二次報道の原典）
- [17] Daring Fireball 「Cloudflare: 'Perplexity Is Using Stealth, Undeclared Crawlers to Evade Website No-Crawl Directives」 2025 年 8 月 5 日。https://daringfireball.net/linked/2025/08/05/cloudflare-perplexity（二次情報。原典は Cloudflare ブログ）
- [18] IPWatchdog 「New York Times Sues Perplexity AI in Latest IP Case Against GenAI Companies」 2025 年 12 月 8 日。https://ipwatchdog.com/2025/12/08/new-york-times-sues-perplexity-ai-latest-ip-case-genai-companies/（二次報道）
- [19] Justia Trademarks 「Perplexity AI, Inc. Trademarks」。https://trademarks.justia.com/owners/perplexity-ai-inc-5628789（公的データの二次集計。最新性は USPTO TSDR での確認を要する）
- [20] Justia Trademarks 「PORTABLE COMPUTER」商標詳細（Serial 73425064、Reg. 1281093、現在は消滅）。https://trademark.justia.com/734/25/portable-computer-73425064.html（公的データの二次集計）
- [21] Gerben IP 「TTAB Generic Trademark Refusal: PC LAPTOPS is Generic for Computers and Computer Retail Stores」。https://www.gerbenlaw.com/blog/a-ttab-case-study-on-genericness-in-re-pc-laptops/（法律事務所解説）
- [22] Perplexity AI 「Introducing Perplexity Patents: AI-Powered Patent Search for Everyone」 2025 年 10 月。https://www.perplexity.ai/hub/blog/introducing-perplexity-patents（一次ソース）
- [23] remio 「Perplexity Patent Search: Is AI Democratizing Patents or Creating New Risks?」。https://www.remio.ai/post/perplexity-patent-search-is-ai-democratizing-patents-or-creating-new-risks（二次情報）
- [24] Brave による Comet の間接プロンプトインジェクション報告（2025 年 8 月）、および LayerX による「CometJacking」報告（責任開示 2025 年 8 月 27 日）。※各報告書 URL は未確認（セキュリティ一次報告）
- [25] Amazon 対 Perplexity 訴訟（2025 年 11 月提訴、CFAA 関連。2026 年 3 月予備的差止→第 9 巡回控訴裁が取消）に関する報道。※判決文・記事 URL は未確認（二次報道）
- [26] Perplexity 公式 X、SoftBank との Enterprise Pro 再販提携に関する投稿、2025 年 3 月 17 日。※投稿 URL は未確認（一次ソース）

※本文中の上付き数字は上記文献番号に対応する。「未確認」と付した項目は、調査時点で一次ソースまたは URL の裏取りができなかったものである。最終アクセス日：2026 年 8 月 30 日。